

領 域	専門基礎分野	開講時期	1 年前期																																				
科 目 名	解剖学	単 位 数 (時間数)	2 単位 (45 時間)																																				
講 師 (所属・職位等・実務経験)	中島 民治 (元産業医科大学産業保健学部・准教授・解剖学教育 34 年)																																						
<p>&lt;科目目標&gt;          人体の形態と構造について系統的に理解する。また、器官を構成する細胞や分子について、器官のシステムとしての働きを理解する。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 解剖学を学ぶための基礎知識 1) 形からみた人体 2) 人体の素材としての細胞・組織</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2・3</td> <td>2. 運動器系 1) 骨格の構造 2) 関節の構造 3) 骨格筋の構造</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4・5</td> <td>3. 消化器系 1) 咀嚼・嚥下 2) 消化と吸収</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6・7</td> <td>4. 呼吸器系 1) 気道の構造 2) 肺の構造</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>5. 血液 1) 血液の成分</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9～11</td> <td>6. 循環器系 1) 心臓の構造 2) 血管系の構造 3) リンパ系の構造</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>12～14</td> <td>7. 泌尿器系 1) 腎臓の機能 2) 排尿 8. 体液 1) 体液の構成</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>15・16</td> <td>9. 自律神経系 1) 自律神経の構造 10. 内分泌系 1) 内分泌機関の構造</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>17～19</td> <td>11. 神経系 1) 神経細胞と神経組織 2) 中枢神経系の構造 3) 末梢神経系の構造</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>20～21</td> <td>12. 感覚器系 1) 眼の構造 2) 耳の構造 3) 味覚器・臭覚器 13. 外部環境からの防御 1) 皮膚の構造</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>22～23</td> <td>14. 生殖器系 1) 女性の生殖器系の構造 2) 男性の生殖器の構造 15. 成長と老化 1) 成長による変化 2) 老化による変化</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 解剖学を学ぶための基礎知識 1) 形からみた人体 2) 人体の素材としての細胞・組織	講義	2・3	2. 運動器系 1) 骨格の構造 2) 関節の構造 3) 骨格筋の構造	講義	4・5	3. 消化器系 1) 咀嚼・嚥下 2) 消化と吸収	講義	6・7	4. 呼吸器系 1) 気道の構造 2) 肺の構造	講義	8	5. 血液 1) 血液の成分		9～11	6. 循環器系 1) 心臓の構造 2) 血管系の構造 3) リンパ系の構造	講義	12～14	7. 泌尿器系 1) 腎臓の機能 2) 排尿 8. 体液 1) 体液の構成	講義	15・16	9. 自律神経系 1) 自律神経の構造 10. 内分泌系 1) 内分泌機関の構造	講義	17～19	11. 神経系 1) 神経細胞と神経組織 2) 中枢神経系の構造 3) 末梢神経系の構造	講義	20～21	12. 感覚器系 1) 眼の構造 2) 耳の構造 3) 味覚器・臭覚器 13. 外部環境からの防御 1) 皮膚の構造	講義	22～23	14. 生殖器系 1) 女性の生殖器系の構造 2) 男性の生殖器の構造 15. 成長と老化 1) 成長による変化 2) 老化による変化	講義
回	授業内容	授業方法																																					
1	1. 解剖学を学ぶための基礎知識 1) 形からみた人体 2) 人体の素材としての細胞・組織	講義																																					
2・3	2. 運動器系 1) 骨格の構造 2) 関節の構造 3) 骨格筋の構造	講義																																					
4・5	3. 消化器系 1) 咀嚼・嚥下 2) 消化と吸収	講義																																					
6・7	4. 呼吸器系 1) 気道の構造 2) 肺の構造	講義																																					
8	5. 血液 1) 血液の成分																																						
9～11	6. 循環器系 1) 心臓の構造 2) 血管系の構造 3) リンパ系の構造	講義																																					
12～14	7. 泌尿器系 1) 腎臓の機能 2) 排尿 8. 体液 1) 体液の構成	講義																																					
15・16	9. 自律神経系 1) 自律神経の構造 10. 内分泌系 1) 内分泌機関の構造	講義																																					
17～19	11. 神経系 1) 神経細胞と神経組織 2) 中枢神経系の構造 3) 末梢神経系の構造	講義																																					
20～21	12. 感覚器系 1) 眼の構造 2) 耳の構造 3) 味覚器・臭覚器 13. 外部環境からの防御 1) 皮膚の構造	講義																																					
22～23	14. 生殖器系 1) 女性の生殖器系の構造 2) 男性の生殖器の構造 15. 成長と老化 1) 成長による変化 2) 老化による変化	講義																																					
<p>授業の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の構造をマクロ (肉眼解剖学) からミクロ (組織細胞学) まで系統的に概説する。</li> <li>2. 臨床医学的側面より見た人体の局所解剖学的特徴について概説する。</li> <li>3. 人体の解剖学的な特徴を理解させる。</li> </ol>																																							

4. 人体の発生について個体発生と系統発生の両面から概説する。
5. テキスト（解剖生理学：医学書院）を中心に講義を行う。
6. 講義は板書を中心にスライド、模型、ホワイトボードなどを適宜活用しながら進める。
7. より確実で深い理解を得られるように適宜補足資料を用いる。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学（医学書院）

評価方法

1. 筆記試験

領 域	専門基礎分野	開講時期	1 年前期～後期
科 目 名	生理学	単 位 数 (時間数)	2 単位 (45 時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	中島 民治 (元産業医科大学産業保健学部・准教授・解剖学教育 34 年)		
<p>&lt;科目目標&gt;          人体を構成する細胞や器官の機能について学ぶ。生命を維持する働きや活動を統合する働きについて学ぶ。</p> <p>&lt;内容&gt;</p>			
回	授業内容	授業方法	
1	1. 生理学を学ぶための基礎知識 1) 細胞と組織 (1) 遺伝子と情報伝達 (2) 細胞分裂 (3) 組織 (4) 細胞内情報伝達 2) 生体リズムと内部環境の恒常性 (1) 生体リズム (2) 内部環境の恒常性	講義	
2・3	2. 運動器系 1) 骨格の機能 2) 骨格筋の機能	講義	
4・5	3. 消化器系 1) 口・咽頭・食道の機能 2) 栄養素の消化と吸収 3) 肝臓の機能	講義	
6・7	4. 呼吸器系 1) 内呼吸と外呼吸 2) 呼吸のメカニズム 3) ガス交換とガスの運搬 4) 肺の循環と血流 5) 呼吸運動の調整	講義	
8	5. 血液 1) 血液の機能 2) 止血機構 3) 血液型	講義	
9～11	6. 循環器系 1) 心臓の機能 2) 血管系の機能 3) リンパ系の機能	講義	
12～14	7. 泌尿器系 1) 尿の生成 2) 体液量の調整 3) 排尿 8. 体液 1) 体液の調節	講義	
15・16	9. 自律神経系 1) 自律神経の機能 10. 内分泌系 1) ホルモンの種類 2) ホルモン分泌の調節 3) ホルモンの機能	講義	
17～19	11. 神経系 1) 神経細胞と神経組織 2) 中枢神経系の機能 3) 末梢神経系の機能	講義	
20～21	12. 感覚器系 1) 体性感覚 2) 視覚 3) 聴覚 4) 平衡感覚 5) 味覚 6) 嗅覚 7) 内臓感覚 13. 生体の防御機構 1) 非特異的生体防御機構 2) 特異的生体防御反応 14. 体温調節 1) 体温 2) 体温の調節 15. 代謝系 1) 栄養とエネルギー代謝 2) 物質代謝	講義	
22～23	15. 生殖器系 1) 女性の生殖器の機能 2) 男性の生殖器の機能 3) 受精と発生 16. 成長と老化 1) 成長による変化 2) 老化による変化	講義	

#### 授業の進め方

1. 人体の機能をマクロ（肉眼解剖学）からミクロ（組織細胞学）まで系統的に概説する。
2. 人体の解剖生理学的な特徴と疾患・病態生理との関連を理解させる。
3. 人体の発生について個体発生と系統発生の両面から概説する。
4. テキスト（解剖生理学：医学書院）を中心に講義を行う。
5. 講義は板書を中心にスライド、模型、ホワイトボードなどを適宜活用しながら進める。
6. より確実に深い理解を得られるように適宜補足資料を用いる。

#### テキスト

1. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学（医学書院）

#### 評価方法

1. 筆記試験

領域	専門基礎分野	開講時期	1年前期
科目名	生化学	単位数 (時間数)	1単位 (30時間)
講師 (所属・職位等・実務経験)	藤岡 竜太 (別府大学短期大学部食物栄養科・准教授・7年)		
<p>&lt;科目目標&gt;          人体を構成する細胞、生体内における代謝と役割、生命活動を営むために必要な栄養、遺伝について理解する。</p> <p>&lt;概要&gt;          生化学は人の身体的理解(解剖生理学)を基礎として、人間の身体内における物質(栄養素)の変化から生命現象の維持やホメオスタシスについて学習します。生化学の基本は健康な人の身体内における物質代謝を学ぶ学問であり、看護の目的である疾病との関連を知るためにも、その基礎となる栄養素の体内での変化(物質代謝)を理解することは重要です。加えて、遺伝子の情報に基づく物質の変化を理解することも必要となります。</p> 栄養素といわれる糖質、脂質、タンパク質、無機質、ビタミン等について定義、分類し、化学性、物質名、働きを学習するとともに、生きるためのエネルギー獲得法、必要物質・老廃物の生成法を物質代謝の観点から分子レベル、遺伝子レベルで理解する。 <p>&lt;内容&gt;</p>			
回	授業内容	授業方法	
1	1.生化学を学ぶための基礎知識 1)生化学とは 2)生体の化学の基礎知識 3)細胞の基本構造	講義	
2	2.代謝の基礎と酵素・補酵素 1)代謝とは 2)酵素 3)補因子 3)ビタミン 4)酵素反応速度論 5)酵素の阻害	講義	
3	3.糖質の構造と機能 1)単糖類 2)二糖類、オリゴ等類 3)多等類	講義	
4	4.糖質代謝 1)糖質の消化と吸収 2)グルコースの分解 3)グリコーゲン代謝 4)ペントースリン酸回路 5)糖新生 6)ガラクトース等分解 7)糖質代謝異常症	講義	
5	5.脂質の構造と機能 1)脂質の定義・分類 2)脂質の種類 3)リポタンパク質	講義	
6	6.脂質代謝 1)脂質の消化と吸収 2)脂肪酸の分解・合成 3)脂質代謝異常	講義	
7	7.タンパク質の構造と機能 1)タンパク質とは 2)アミノ酸 3)タンパク質の構造	講義	
8	8.タンパク質代謝 1)タンパク質の消化と吸収 2)アミノ酸の分解 3)非必須アミノ酸の合成	講義	
9	9.ポルフィリン代謝と異物代謝 1)ポルフィリン 2)生体異物代謝 3)活性酵素とその除去反応	講義	
10	10.遺伝子と核酸 1)遺伝情報 2)遺伝子の基礎知識 3)拡散の構造と機能、代謝	講義	
11	11.遺伝子の複製・修復・組換え 1)DNAの複製 2)DNAの修復 3)DNAの組替え 4)DNA修復機能の異常による遺伝子疾患 5)遺伝子多型	講義	

回	授業内容	授業方法
12	12.転写 1)転写とは 2)転写の開始と終結 3)RNAのプロセッシング 3)遺伝子の発現調節	講義
13	13.翻訳と翻訳後修飾 1)翻訳の概要 2)翻訳のメカニズム 3)タンパク質の折りたたみと輸送・修飾 4)翻訳後修飾 5)細胞内輸送シグナル	講義
14	14.シグナル伝達 1)シグナル伝達の概要 2)細胞内シグナル伝達の機序 3)内分泌の生化学的基礎	講義
15	15.がん 1)がんの性質 2)細胞周期とがん 3)がん遺伝子 4)がん抑制遺伝子 5)染色体転座 6)がん薬物療法	講義
<p>授業の進め方</p> <p>生命の維持に必要な物質(栄養素等・水・食物繊維)を学習し、それらが体内において代謝されエネルギーを得る過程、老廃物となる過程を憶えていきます。また、遺伝情報、細胞のシグナル伝達についてテキストにそって詳しく学習します。目に見えにくい反応なので理解しにくいかもしれませんが、テキストの図を参考に何度も読み返すことにより、理解していきましょう。テキストとプリントでポイントをおさえながら解説します。テキストを十分に活用して下さい。</p>		
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [2] 生化学 (医学書院)</li> <li>2. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [3] 栄養学 (医学書院)</li> </ol>		
<p>評価方法</p> <p>小テスト、終講時の筆記試験により評価する。</p>		

領 域	専門基礎分野	開講時期	1 年前期～後期
科 目 名	栄養学	単 位 数 (時間数)	1 単位(15 時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	①春田 典子 (別府医療センター・栄養管理室長) ②本庄 真一 (別府医療センター・主任栄養士)		
<科目目標> 人間に必要な栄養・栄養素について理解する。また、現代の食生活の現状や問題点・健康障害時の食事に関する知識を理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1～2	1. 栄養と栄養素 1) 栄養とは 2) 栄養素とは 3) 栄養素の分類：五大栄養素、三大栄養素	講義	①
3	2. 栄養状態の評価 1) 身体計測 身長、体重、体格指数(BMI)、皮下脂肪、体脂肪率など 2) 食事調査 3) 臨床検査 4) 入院時の栄養管理調査	講義	②
4	3. 日常生活と栄養 1) 食文化の多様性：世界、日本、地域、個人 2) 現代の食生活の特徴と問題点、解決策 (1) 肥満、やせ、過剰栄養、低栄養 (2) 生活習慣病 (3) 個食、孤食、欠食 (4) サプリメント (5) 食の安全性 (6) 解決策：食育、スローフード、地産地消等	講義	①
5	4. ライフステージと栄養 1) 乳幼児期      2) 学童期      3) 青年期      4) 成人期 5) 妊娠・授乳期      6) 更年期      7) 老年期	講義	①
6	5. 療養生活と食事 1) 検査のための食事 大腸検査、甲状腺機能検査、潜血検査、乾燥食、ヨード制限 2) 病院食 (1) 一般食 常食、軟食、流動 (2) 特別食 エネルギーコントロール、たんぱく質コントロール、脂質コントロール、ナトリウムコントロール、易消化、術後食、化学療法時食、放射線療法時食 3) 嚥下障害のある人の食事 4) 経腸栄養剤：天然濃厚流動食、半消化態栄養剤、成分栄養剤	講義	①

回	授業内容	授業方法	担当講師
7	6. 食事指導 1) 栄養士による指導：対象、方法、留意点 2) 看護職との連携	講義	②
8	7. チーム医療と食事 1) 栄養サポートチーム (NST: nutrition support team) 2) 緩和ケアチーム、褥瘡ケアチームなど	講義	②
<p>授業の進め方</p> <p>解剖生理学・生化学の知識を活用し理解する。疾患別の治療食については、病態生理学と合わせて理解していくとともに、基礎看護学(食と栄養)をはじめ、各看護学の食事に関する内容に活用できるよう学ぶ。</p> <p>主にパワーポイントを使用して講義を進める。</p>			
<p>テキスト</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [3] 栄養学(医学書院)：①②</li> <li>2. 系統看護学講座別巻 栄養食事療法(医学書院)：①②</li> <li>3. 糖尿病食事療法のための食品交換表(第7版)(文光堂)：①②</li> </ol>			
<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p>			



領 域	専門基礎分野	開講時期	1 年前期																																																
科 目 名	微生物学	単 位 数 (時間数)	1 単位(30 時間)																																																
講 師 (所属・職位等・実務経験)	松本 昂 (大分大学医学部環境・予防医学講座・助教・10 年)																																																		
<p>&lt;科目目標&gt;  感染症の原因である微生物および微生物とその宿主（特に人間）との相互関係について理解する。また人間を取り巻く環境中の微生物について理解する。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>1. 微生物の成り立ち</td><td>講義</td></tr> <tr><td>2</td><td>2. 微生物学概論</td><td>講義</td></tr> <tr><td>3</td><td>3. 感染症の歩み</td><td>講義</td></tr> <tr><td>4</td><td>4. 細菌の構造、感染経路</td><td>講義</td></tr> <tr><td>5</td><td>5. 感染症の検査方法① (染色方法、直接鏡検法、培養法)</td><td>講義</td></tr> <tr><td>6</td><td>6. 感染症の検査方法② (原虫学的検査法、遺伝学的検査法、抗体検査)</td><td>講義</td></tr> <tr><td>7</td><td>7. 感染症の診断、観察</td><td>講義</td></tr> <tr><td>8</td><td>8. 滅菌と消毒</td><td>講義</td></tr> <tr><td>9</td><td>9. 感染症の予防、手指衛生</td><td>講義</td></tr> <tr><td>10</td><td>10. 性感染症・母子感染</td><td>講義</td></tr> <tr><td>11</td><td>11. 細菌学・ウイルス学</td><td>講義</td></tr> <tr><td>12</td><td>12. 真菌症</td><td>講義</td></tr> <tr><td>13</td><td>13. 寄生虫学</td><td>講義</td></tr> <tr><td>14</td><td>14. 抗菌薬</td><td>講義</td></tr> <tr><td>15</td><td>15. 公衆衛生・危機管理</td><td>講義</td></tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 微生物の成り立ち	講義	2	2. 微生物学概論	講義	3	3. 感染症の歩み	講義	4	4. 細菌の構造、感染経路	講義	5	5. 感染症の検査方法① (染色方法、直接鏡検法、培養法)	講義	6	6. 感染症の検査方法② (原虫学的検査法、遺伝学的検査法、抗体検査)	講義	7	7. 感染症の診断、観察	講義	8	8. 滅菌と消毒	講義	9	9. 感染症の予防、手指衛生	講義	10	10. 性感染症・母子感染	講義	11	11. 細菌学・ウイルス学	講義	12	12. 真菌症	講義	13	13. 寄生虫学	講義	14	14. 抗菌薬	講義	15	15. 公衆衛生・危機管理	講義
回	授業内容	授業方法																																																	
1	1. 微生物の成り立ち	講義																																																	
2	2. 微生物学概論	講義																																																	
3	3. 感染症の歩み	講義																																																	
4	4. 細菌の構造、感染経路	講義																																																	
5	5. 感染症の検査方法① (染色方法、直接鏡検法、培養法)	講義																																																	
6	6. 感染症の検査方法② (原虫学的検査法、遺伝学的検査法、抗体検査)	講義																																																	
7	7. 感染症の診断、観察	講義																																																	
8	8. 滅菌と消毒	講義																																																	
9	9. 感染症の予防、手指衛生	講義																																																	
10	10. 性感染症・母子感染	講義																																																	
11	11. 細菌学・ウイルス学	講義																																																	
12	12. 真菌症	講義																																																	
13	13. 寄生虫学	講義																																																	
14	14. 抗菌薬	講義																																																	
15	15. 公衆衛生・危機管理	講義																																																	
<p>授業の進め方  主にパワーポイント、資料を用いて講義を行う。</p>																																																			
<p>テキスト  1. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[4] 微生物学 (医学書院)</p>																																																			
<p>評価方法  筆記試験</p>																																																			

領 域	専門基礎分野	開講時期	1年前期
科 目 名	病理学	単 位 数 (時間数)	1 単位(15 時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	中園 裕一(別府医療センター・臨床検査科医長)		

<科目目標>

人体の健康が破綻する病態の原因・発生機序・治療や検査を理解する。

<内容>

回	授業内容	授業方法
1	1. 疾病の要因と生体の回復 1) 病気を引き起こす内的・外的要因 2) 疾病を引き起こす生活習慣 3) ストレス 4) 回復過程 5) 回復に影響する身体的/心理・社会的要因	講義
2	2. 細胞の障害 1) 萎縮 2) 変性 3) 肥大と過形成 4) 壊死とアポトーシス 5) 創傷と治癒	講義
3～6	3. 生体の障害 1) 循環障害 (1) 循環器系の概要 (2) 循環障害 (局所性・全身性・リンパ) 2) 臓器不全 3) 炎症、損傷 4) 免疫異常、アレルギー (1) アレルギーと自己免疫疾患(2) 移植と免疫 5) 内分泌・代謝異常 6) 廃用症候群 7) 老年症候群 (1) 細胞の老化と固体の老化 (2) 加齢に伴う諸臓器の変化 (3) 個体の死 8) 遺伝子異常、先天異常 9) 腫瘍 (1) 腫瘍の定義と分類 (2) 腫瘍の発生病理 (発生機序、発生原因) (3) 悪性腫瘍の転移と進行度 10) 中毒 11) 放射性障害	講義
7	4. 感染 1) 人と病原体の関わり 2) ウイルス 3) 細菌 4) 真菌 5) 薬剤耐性 (多剤耐性菌)	講義
8	5. 病理診断	講義

授業の進め方

本科目では、疾病の病因および成り立ちについて学習する。疾病論を学習する上での基礎となる学習内容であり、ここで学習した病態(疾病)の原因・発生機序・検査などの知識を疾病論および各看護学への学習につなげていく。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[1] 病理学 (医学書院)

評価方法

筆記試験

領 域	専門基礎分野	開講時期	1年 前期～後期
科 目 名	疾病論 I	単 位 数 (時間数)	1単位 (30時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	①上野 拓也 (別府医療センター・呼吸器科医長) ②福山 誠一 (別府医療センター・呼吸器外科医長) ③藤本 書生 (別府医療センター・循環器内科部長) ④竹林 聡 (別府医療センター・心臓血管外科医長) ⑤久米 正純 (別府医療センター・心臓血管外科医長)		
<科目目標> 呼吸器および循環器の疾病について病態・検査・治療を理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1～5	1. 呼吸機能の障害 1) 主な疾患 (1) 気道・肺の炎症 ①結核 ②インフルエンザ ③肺炎 ④間質性肺疾患 (2) 気道の閉塞をきたす疾患 ①気管支喘息 ②慢性閉塞性肺疾患 (3) 肺循環障害 ①肺梗塞 ②肺塞栓症 (4) 肺腫瘍 (5) 呼吸不全 (6) 気胸 2) 主な症状 (1) 酸素化障害の症状 (2) 換気障害の症状 (3) 呼吸運動障害の症状 3) 主な検査 (1) 気管支鏡検査 (2) 胸腔穿刺・胸水検査 (3) 肺生検 (4) 呼吸機能検査 (5) 血液検査・動脈血液ガス分析 (6) 喀痰検査 (7) 画像検査 4) 主な治療、処置 (1) 酸素療法 (2) 吸入療法 (3) 呼吸理学療法 (4) 気道確保 (5) 胸腔ドレナージ (6) 人工呼吸療法 ①非侵襲的陽圧管理 ②侵襲的陽圧管理 (7) 薬物療法 ①抗アレルギー薬 ②気管支拡張薬 ③副腎皮質ステロイド	講義	①

回	授業内容	授業方法	担当講師
6・7	4) 主な治療・処置 (8) 手術療法 (胸腔鏡含む) (9) 胸腔ドレナージ 5) 呼吸器手術に伴う合併症	講義	②
8～12	2. 循環器の障害 1) 主な疾患 (1) 心臓の疾患の病態と診断・治療 ① 先天性心疾患 i. 心房中隔欠損症 ii. 心室中隔欠損症 iii. 動脈管開存症 iv. ファロー四徴症 ② 虚血性心疾患 i. 狭心症 ii. 急性冠症候群 (急性心筋梗塞) ③ 心筋症 i. 肥大型心筋症 ii. 拡張型心筋症 ④ 心不全 i. 急性心不全 ii. 慢性心不全 ⑤ 心タンポナーデ ⑥ 不整脈 i. 上室性頻脈性不整脈 ii. 心室性頻脈性不整脈 iii. 徐脈性不整脈 ⑦ 炎症性疾患 i. 感染性心内膜炎 ii. 心筋炎 iii. 収縮性心膜炎 ⑧ 弁膜症 i. 大動脈弁疾患 ii. 僧帽弁疾患 (2) 血圧異常の病態と診断・治療 ① 動脈硬化症 ② 本態性高血圧 ③ 二次性高血圧 ④ 起立性低血圧 (3) ショックの病態と診断・治療 ① 心原性ショック ② 出血性ショック ③ 血流分布異常性ショック 2) 主な症状 (1) ポンプ機能障害の症状 (2) 輸送還流障害の症状 (3) 刺激伝導障害の症状 (4) 胸部X線、CT、MRI (5) 血行動態モニタリング (6) 動脈血ガス分析 3) 主な検査 (1) 心臓カテーテル検査 (2) 心血管造影検査 (3) 心電図・心エコー検査 4) 治療・処置 (1) 内科的治療 ① 薬物療法 (血栓溶解療法) ② 心臓カテーテル治療 (PCI、アブレーション、血栓除去術) ③ ペースメーカ装置	講義	③

回	授業内容	授業方法	担当講師
13・14	(2) 外科的治療 ① 周手術期管理 ② 主な術式、冠動脈バイパス術 (CABG) 弁置換術 (3) 補助循環装置 ① 大動脈内バルーンポンプ (IABP) ② 経皮的心肺補助 ③ 補助人工心臓	講義	④
15	3. 血管の疾患 1) 主な疾患 (1) 大動脈瘤・大動脈解離 (2) 閉塞性動脈硬化症 (3) 挫滅症候群 (4) 下肢静脈瘤 (5) 深部静脈血栓症 2) 症状・検査・治療	講義	⑤
<b>授業の進め方</b> 解剖生理学、病理学をふまえ、視聴覚教材等を用いて講義を進める。			
<b>テキスト</b> 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[2]呼吸器 (医学書院) : ①② 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[3]循環器 (医学書院) : ③④ 3. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 (医学書院) : ⑤			
<b>評価方法</b> 筆記試験			

領 域	専門基礎分野	開講時期	1年 後期
科 目 名	疾病論Ⅱ	単 位 数 (時間数)	1単位 (30時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	① 杉田 真一 (別府医療センター・外科医長) ② 鶴田 悟 (別府医療センター・教育研修部長) ③ 甲斐 成一郎 (別府医療センター・外科医長) ④ 深田 陽子 (別府医療センター・糖尿病代謝内科医長)		
<科目目標> 消化器および内分泌・代謝の疾病について病態・検査・治療を理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1～4	1. 消化器系 (消化管) 1) 主な疾患 (1) 上部消化管の疾患の病態と診断・治療 ① 炎症性疾患 i. 逆流性食道炎 ii. 急性胃炎 iii. 慢性胃炎 iv. ヘリコバクターピロリ感染症 ② 潰瘍性疾患 i. 胃潰瘍 ii. 十二指腸潰瘍 ③ 腫瘍 i. 食道癌 ii. 胃癌 (2) 下部消化管の疾患の病態と診断・治療 ① 炎症性疾患 i. 潰瘍性大腸炎 ii. Crohn<クローン>病 iii. 虫垂炎、痔瘻 ② 腸重積症 ③ 腫瘍 i. 大腸ポリープ ii. 結腸癌 iii. 直腸癌 ④ 排便障害 i. 便秘 ii. 下痢 (3) 腹壁・腹膜・横隔膜の疾患の病態と診断・治療 ① 鼠径ヘルニア ② 腹膜炎 ③ 横隔膜ヘルニア 2) 主な症状 (1) 消化管機能障害による症状 ① 食欲不振 ② 胸やけ ③ 悪心・嘔吐 ④ 下痢 ⑤ 便秘 ⑥ 吐血・下血・血便 ⑦ 腹痛、腹部膨満 3) 主な検査 (1) 上部消化管内視鏡検査 (2) 大腸内視鏡検査 (3) 上部消化管造影 (4) 下部消化管造影 (5) 直腸診 (6) 画像 4) 主な治療・処置 (1) 薬物療法 (2) 食事療法 (3) 経腸栄養、PEG (4) 中心静脈栄養法	講義	①

回	授業内容	授業方法	担当講師
5～7	<p>2. 消化器系 (肝・胆・膵)</p> <p>1) 主な疾患</p> <p>(1) 炎症性疾患</p> <p>①肝炎 ②胆管炎 ③膵炎</p> <p>(2) 肝硬変</p> <p>(3) 腫瘍</p> <p>①肝癌 ②胆嚢癌 ③胆管癌 ④膵癌</p> <p>(4) 脂肪肝、アルコール性肝炎</p> <p>(5) 胆石症</p> <p>2) 主な症状</p> <p>(1) 肝機能障害による症状</p> <p>①肝性脳症 ②門脈圧亢進、食道静脈瘤 ③浮腫・腹水</p> <p>④倦怠感 ⑤黄疸 ⑥出血傾向 ⑦肝・脾腫大 ⑧皮膚症状</p> <p>(2) 膵液分泌障害による症状</p> <p>(3) 胆汁分泌障害による症状</p> <p>3) 主な検査</p> <p>(1) 造影CT・MRI</p> <p>(2) 肝生検</p> <p>(3) 内視鏡的逆行性胆管膵管造影 (ERCP)</p> <p>4) 主な治療・処置</p> <p>(1) 肝底護療法</p> <p>(2) インターフェロン療法</p> <p>(3) 食道静脈瘤硬化療法</p> <p>(4) 胆道・胆嚢ドレーン挿入</p> <p>(5) 肝動脈塞栓術</p> <p>(6) 急性膵炎の治療</p>	講義	②
8～9	<p>3. 手術療法</p> <p>1) 消化管の術式、術前・術後管理</p> <p>(1) 食道切除術</p> <p>(2) 胃切除術</p> <p>(3) 大腸切除術</p> <p>(4) 腹腔鏡視下手術</p> <p>(5) 人工肛門造設術</p> <p>2) 肝、胆、膵系の術式、術前・術後管理</p>	講義	③
10～15	<p>4. 内分泌・代謝系</p> <p>1) 主な疾患</p> <p>(1) メタボリックシンドローム</p> <p>(2) 肥満症</p> <p>(3) 糖尿病</p> <p>(4) 脂質異常症 (高脂血症)</p> <p>(5) 高尿酸血症と痛風</p> <p>(6) 間脳・下垂体疾患</p> <p>(7) 甲状腺疾患</p> <p>①甲状腺機能亢進症 ②甲状腺機能低下症</p> <p>③甲状腺炎 ④甲状腺がん</p> <p>(8) 副甲状腺疾患</p> <p>(9) 副腎皮質・髄質疾患</p>	講義	④

回	授業内容	授業方法	担当講師
10～15	2) 主な症状 (1) 血糖調節機能障害による症状 (2) 甲状腺機能障害による症状 (3) 副腎機能障害による症状 (4) 下垂体機能障害による症状 3) 主な検査 (1) 糖負荷試験 (OGTT) (2) ホルモン負荷検査 (3) ホルモン血中・尿中濃度測定検査 4) 主な治療 (1) インスリン補充療法 (2) インクレチン関連薬による治療 (3) 食事療法・運動療法 (4) 甲状腺ホルモン療法 (5) 手術療法 ①甲状腺切除術	講義	④
授業の進め方 解剖生理学、病理学をふまえ、視聴覚教材等を用いて講義を進める。			
テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔5〕 消化器 (医学書院) : ①②③ 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔6〕 内分泌・代謝 (医学書院) : ④			
評価方法 筆記試験			



領 域	専門基礎分野	開講時期	1 年前期～後期
科 目 名	疾病論Ⅲ	単 位 数 (時間数)	1 単位(30 時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	①後藤 勝政 (西別府病院・神経内科部長) ②中村 憲一郎 (西別府病院・神経内科医師) ③片山 徹二 (西別府病院・神経内科医師) ④松田 剛 (別府医療センター・救急科医長) ⑤杉 修造 (別府医療センター・整形外科医師)		

<科目目標>

脳神経および運動器の疾病について病態・検査・治療を理解する。

<内容>

回	授業内容	授業方法	担当講師
1～5	1. 脳神経系 1) 主な疾患 (1) 脳血管障害 ①脳内出血 ②くも膜下出血 ③脳梗塞 ④もやもや病 (2) 頭蓋内圧亢進症 (3) 変性疾患 ①パーキンソン病 ②筋萎縮性側索硬化症 (ALS) (4) 脱髄疾患 ①多発性硬化症 (5) 認知症 ①アルツハイマー病 ②血管性認知症 ③レビー小体型認知症 (6) 感染症 ①脳炎 ②髄膜炎 (7) 頭部外傷 (8) 脊髄損傷 (9) 機能性疾患 (てんかん) (10) 脳腫瘍 (11) ギランバレー症候群 (12) 圧迫性神経障害 (13) 顔面神経麻痺 (ベル麻痺) (14) 筋ジストロフィー (15) 重症筋無力症 2) 主な症状 (1) 意識障害 (2) 高次脳機能障害 (3) 運動機能障害 (4) 感覚機能障害 (5) 言語機能障害 (6) 髄膜刺激症状 (7) 頭蓋内圧亢進と脳ヘルニア (8) 反射性運動の障害 3) 主な検査 (1) 神経学的検査 (2) 脳波 (3) CT、MRI (4) 髄液検査 (5) 脳血管造影 4) 主な治療 (1) 血管内治療 ①血栓内治療 ②動脈瘤塞栓術 (2) 低体温療法 (3) リハビリテーション	講義	①②③

回	授業内容	授業方法	担当講師
6～7	5) 外科的治療 (1) 手術適応の疾患、状態 ① 頭部と脊椎の外傷 ② 脳出血 ③ 脳腫瘍 (2) 術式 ① 開頭術 ② 穿頭術 ③ 血管バイパス術 ④ 脳室ドレナージ術 ⑤ 脳室-腹腔シャント術 (3) 術前後の管理、主な合併症	講義	④
8～15	2. 運動器系 1) 主な疾患 (1) 骨折(分類、転移、治癒過程) (2) 脱臼、捻挫 (3) 骨粗しょう症 (4) 関節 ① 変形性関節症 ② 関節リウマチ (5) 腫瘍(骨肉腫) (6) 腰痛症 ① 腰椎椎間板ヘルニア ② 腰部脊柱管狭窄症 ③ 二分脊椎 (7) 炎症性疾患 ① 骨・骨髄炎 ② 関節炎 2) 主な症状 (1) 疼痛(関節痛、筋肉痛、腰痛、坐骨神経痛) (2) 形態の異常 (奇形と変形、機能的要因別に見た変形、部位別に見た変形) (3) 関節運動の異常(関節拘縮、強直、動揺関節) (4) 神経障害(運動麻痺、知覚障害) (5) 筋肉の障害 (6) 異常歩行、跛行 3) 主な検査 (1) 画像検査(関節・脊椎造影検査、シンチグラフィ) (2) 骨密度の測定 (3) 関節鏡検査 (4) 筋生検 4) 主な治療 (1) 保存療法: ギブス、牽引 (2) 理学療法、作業療法 (3) 義肢と装具 (4) 注射: 関節内注射、神経ブロック等 (5) 手術療法 ① 手術の対象、適応 ② 骨の手術 ③ 関節の手術 ④ 脊椎、脊髄の手術 ⑤ 手術の合併症	講義	⑤
<b>授業の進め方</b>			
解剖生理学、病理学をふまえ、視聴覚教材等を用いて講義を進める。			
<b>テキスト</b>			
1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[7] 脳・神経(医学書院): ①②③④ 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10] 運動器(医学書院): ⑤ 3. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論(医学書院): ④			
<b>評価方法</b>			
筆記試験			

領 域	専門基礎分野	開講時期	1年後期
科 目 名	疾病論IV	単 位 数 (時間数)	1単位 (30時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	①菊池 秀年 (別府医療センター・腎臓内科医長) ②井上 亨 (別府医療センター・泌尿器科医長) ③田中 仁寛 (別府医療センター・外科医長) ④ (別府医療センター・産婦人科医師) ⑤矢野 篤次郎 (別府医療センター・院長)		
<科目目標> 腎・泌尿器、生殖器系、乳腺の疾患および感染症の病態・検査・治療を理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1～4	1. 腎系 1) 主な疾患 (1) 腎炎、慢性腎臓病 (2) 炎症性疾患 ①腎盂腎炎 ②膀胱炎 (3) 腫瘍 ①腎癌 ②尿管癌 ③膀胱癌 (4) 腎・尿路結石 (5) 排尿障害 ①過活動膀胱 ②腹圧性尿失禁 ③夜尿症 2) 主な症状 (1) 尿異常 (2) 水・電解質異常 (3) 循環器系の異常 (4) 血液の異常 (5) 尿毒症 3) 主な検査 (1) 尿検査 (2) 腎機能検査 (3) X線検査(膀胱・尿道・血管・逆行性腎盂造影) 4) 主な治療・処置 (1) 内科的治療 ①食事療法 ②薬物療法 ③透析療法 (血液透析、腹膜透析)	講義	①
5～6	2. 泌尿器系 1) 主な疾患 (1) 前立腺肥大 (2) 結石 (3) 腫瘍 2) 主な症状 (1) 排尿障害 (2) 疼痛 (3) 腫脹・腫瘤 3) 主な検査 (1) 膀胱鏡検査 (2) 生検 (腎・膀胱) 4) 主な治療・処置 (1) 外科的治療 ①手術療法 (腎移植・膀胱切除術、前立腺切除術) ②放射線療法 ③ホルモン療法	講義	②

回	授業内容	授業方法	担当講師
7	<p>3. 男性生殖器</p> <p>1) 主な疾患</p> <p>(1) 男性生殖器の疾患</p> <p>①前立腺炎 ②前立腺肥大 ③前立腺癌</p> <p>(2) 生殖機能障害</p> <p>2) 主な症状</p> <p>(1) 勃起障害症状 (2) 性交障害症状</p> <p>3) 主な検査</p> <p>(1) 男性生殖器の触診</p> <p>4) 主な治療・処置</p> <p>(1) 勃起障害治療 (2) 性交障害治療</p> <p>(3) 男性生殖器切除術</p>	講義	②
8	<p>4. 乳腺</p> <p>1) 主な疾患：乳がん</p> <p>2) 主な症状</p> <p>(1) 腫瘍</p> <p>3) 主な検査など</p> <p>(1) 触診 (2) マンモグラフィ (3) 超音波検査 (4) MRI</p> <p>(5) 細胞診 (6) 生検</p> <p>(7) 病期確定診断 (X線検査、CT、骨シンチグラフィ 等)</p> <p>4) 主な治療・処置</p> <p>(1) 手術療法 (2) 放射線療法 (3) 化学療法</p> <p>(4) ホルモン療法</p>	講義	③
9～12	<p>5. 女性生殖器</p> <p>1) 主な疾患</p> <p>(1) 子宮筋腫 (2) 子宮内膜症 (3) 卵巣腫</p> <p>(4) 腫瘍 (子宮体癌、子宮頸癌、卵巣癌、)</p> <p>(5) 生殖機能障害 (月経異常、更年期障害)</p> <p>(6) 性感染症</p> <p>2) 主な症状</p> <p>(1) 月経異常 (2) 帯下 (3) 性器出血 (4) 骨盤内疼痛</p> <p>(5) 排尿障害 (6) 腹部膨満 (7) 外陰部搔痒感</p> <p>3) 主な検査</p> <p>(1) 内診、膣鏡診</p> <p>(2) 病理検査 (塗末細胞診、組織学的検査)</p> <p>(3) 画像検査 (超音波検査、CT、MRI)</p> <p>(4) 腫瘍マーカー検査 (5) 内視鏡検査</p> <p>4) 主な治療・処置</p> <p>(1) 内科的治療</p> <p>①膣洗浄 ②ダグラス窩穿刺 ③レーザー治療</p> <p>④薬物療法 (ホルモン療法、悪性腫瘍の化学療法、感染症に対する薬物療法)</p> <p>⑤ワクチン接種による予防</p> <p>(2) 外科的治療</p> <p>①手術療法</p>	講義	④

回	授業内容	授業方法	担当講師
13～15	5. 感染症 1) 主な感染症 (1) 呼吸器感染症：上気道感染 (2) 感染性食中毒 (3) 性感染症 (4) 尿路感染症 (5) 全身性ウイルス性疾患 (6) 針刺しによる感染症 2) 主な症状 (1) 発熱 (2) 発疹 (3) 下痢 (4) 意識障害 (5) 咳 3) 主な検査 (1) 病原体検出法 (2) 血清学診断法 4) 主な治療、予防 (1) 化学療法：抗細菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬など (2) 予防接種	講義	⑤
授業の進め方 解剖生理学、病理学をふまえ、視聴覚教材等を用いて講義を進める。			
テキスト 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器 (医学書院)：①② 2. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 (医学書院)：②③ 3. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器 (医学書院)：④ 4. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[11] アレルギー・膠原病・感染症 (医学書院)：⑤			
評価方法 筆記試験			

領域	専門基礎分野	開講時期	2年前期
科目名	疾病論V	単位数 (時間数)	1単位 (30時間)
講師 (所属・職位等・実務経験)	① (別府医療センター・産婦人科医師) ②鳥越 雅隆 (別府医療センター・医師) ③木村 大作 (別府医療センター・医師) ③清崎 邦洋 (別府医療センター・眼科医長) ④安倍 伸幸 (別府医療センター・耳鼻咽喉科医長) ⑤小野 敬一郎 (別府医療センター・歯科口腔外科医長) ⑥甲斐 宜貴 (別府医療センター・皮膚科医長)		
<科目目標> 女性生殖器、アレルギー、膠原病、感覚器、口腔・歯の疾病について病態・検査・治療を理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1～4	1. 女性生殖器 1) 主な疾患 (1) 子宮筋腫 (2) 子宮内膜症 (3) 卵巣腫 (4) 腫瘍 (子宮体癌、子宮頸癌、卵巣癌、) (5) 生殖機能障害 (月経異常、更年期障害) (6) 性感染症 2) 主な症状 (1) 月経異常 (2) 帯下 (3) 性器出血 (4) 骨盤内疼痛 (5) 排尿障害 (6) 腹部膨満 (7) 外陰部搔痒感 3) 主な検査 (1) 内診、膣鏡診 (2) 病理検査 (塗末細胞診、組織学的検査) (3) 画像検査 (超音波検査、CT、MRI) (4) 腫瘍マーカー検査 (5) 内視鏡検査 4) 主な治療・処置 (1) 内科的治療 ①膣洗浄 ②ダグラス窩穿刺 ③レーザー治療 ④薬物療法 (ホルモン療法、悪性腫瘍の化学療法、感染症に対する薬物療法) ⑤ワクチン接種による予防 (2) 外科的治療 ①手術療法	講義	①
5	2. アレルギー 1) 主な疾患と症状 (1) 花粉症 (アレルギー性鼻炎) (2) 蕁麻疹 (3) 接触皮膚炎 (4) アナフィラキシーショック 2) 主な検査 (1) IgE (2) アレルゲンテスト 3) 主な治療・処置 (1) 薬物療法 (免疫抑制剤、ステロイド療法) (2) 減感作療法	講義	②
6・7	3. 自己免疫疾患 1) 主な疾患 (1) 関節リウマチ (2) 全身性エリテマトーデス (3) シェーグレン症候群 (4) ベーチェット病 2) 主な症状 (1) 関節痛・関節炎 (2) 皮疹 (3) 筋力低下 (4) 血管炎 (5) レイノー現象 3) 主な検査 (1) 免疫学的検査 4) 主な治療・処置 (1) 薬物療法 (ステロイド薬、免疫抑制剤、抗リウマチ薬)	講義	③

回	授業内容	授業方法	担当講師
8・9	4-1. 感覚器 (眼) 1) 主な疾患 (1) 白内障 (2) 緑内障 (3) 網膜剥離 (4) 網膜症 (5) 加齢黄斑変性 2) 主な症状 (1) 視機能に関連した症状 (2) 視機能に関連しない症状 3) 主な検査 (1) 眼底検査 (2) 視力、視野、眼球運動の検査 4) 主な治療 (1) 点眼 (2) 眼底光凝固療法 (3) 手術 (白内障、緑内障、角膜移植、網膜剥離治療)	講義	④
10～12	4-2. 感覚器 (耳鼻咽喉) 1) 主な疾患 (1) 聴力障害の疾患 (2) 副鼻腔炎 (3) 咽頭がん (4) 喉頭がん 2) 主な症状 (1) 耳(聴力の障害、メニエール病) (2) 鼻(鼻出血、嗅覚障害) (3) 咽頭(咽頭痛、呼吸障害、嚥下障害) (4) 喉頭(音声) 3) 主な検査 (1) 聴力検査(オーディオメーター検査) (2) 平衡感覚検査 (3) 鼻腔内視鏡検査 4) 主な治療 (1) 耳の処置 (2) 鼻の処置 (3) 咽喉頭の処置 (4) 手術(鼓室形成術、副鼻腔手術、喉頭の手術)	講義	⑤
13	4-3. 感覚器 (歯・口腔) 1) 主な疾患 (1) 齲蝕および歯髄疾患 (2) 歯周組織疾患 (3) 腫瘍 (舌癌) 2) 主な症状 (1) 口腔症状 (疼痛、腫脹、口腔出血、歯の欠損、口臭 等) (2) 顎口腔機能障害 (開口障害、咀嚼・嚥下障害、味覚障害 等) 3) 主な治療・処置 (1) 齲蝕治療 (2) 歯周疾患治療 (3) 口腔外科外来治療 (4) 口腔外科入院治療 (悪性腫瘍切除)	講義	⑥
14・15	4-4 感覚器 (皮膚) 1) 主な疾患 (1) 湿疹・皮膚炎群 (湿疹、アトピー性皮膚炎、帯状疱疹、疥癬、蜂窩織炎等) (2) 蕁麻疹 (3) 葉疹 (4) 熱傷 (5) 褥瘡 (6) 皮膚感染症 (真菌感染症・ヘルペス 等) (7) 腫瘍 2) 主な症状 (1) 発疹 (2) びらん (3) 瘙痒 3) 主な検査 (1) 皮膚科的検査法(免疫・アレルギー検査、光線過敏性検査 等) (2) 病原微生物検査法(細菌検査、真菌検査、ウイルス検査 等) (3) 病理組織検査法 4) 主な治療・処置 (1) 内服療法 (2) 外用療法 (3) 手術療法 (4) 光線療法 (5) レーザー療法	講義	⑦

授業の進め方

解剖生理学、病理学をふまえ、視聴覚教材等を用いて講義を進める。

テキスト

1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[9] 女性生殖器 (医学書院) : ①
2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[11] アレルギー 膠原病 感染症 (医学書院) : ②③
3. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[12] 皮膚 (医学書院) : ⑦
4. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[13] 眼 (医学書院) : ④
5. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[14] 耳鼻咽喉 (医学書院) : ⑤
6. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[15] 歯・口腔 (医学書院) : ⑥

評価方法

筆記試験



領域	専門基礎分野	開講時期	1年後期
科目名	薬理学	単位数 (時間数)	1単位(15時間)
講師 (所属・職位等・実務経験)	佐藤 朋香 (別府医療センター・薬剤師)		
<p>&lt;科目目標&gt; 薬物の特性及び作用・副作用についての基礎的な知識を理解する。</p> <p>&lt;内容&gt;</p>			
回	授業内容	授業方法	
1	1. 薬事法規 1) 薬剤師法 2) 薬事法 3) 毒物及び劇物取締法 4) 麻薬及び向精神薬取締法 2. 医薬品添付文書の読み方 1) 医薬品添付文書: 薬事法によって医薬品に必ず添付するよう規定されている公文書 3. 薬理作用と作用機序 1) 薬理作用 2) 薬物の作用機序 3) 受容体 4. 薬効 1) 主作用 2) 副作用(有害作用) 3) 薬物依存 4) 薬物相互作用 5. 投与経路と血中濃度の推移 1) 投与経路 2) 作用時間	講義	
2	6. 薬物動態(薬物の移動) 1) 吸収 2) 分布 3) 代謝 4) 排泄 5) 生物学的半減期 7. 剤形と体内動態 1) 剤形の種類 2) 適用部位と剤形 3) 剤形ごとの特徴: 散剤、顆粒剤、シロップ、錠剤、舌下剤、カプセル剤、液剤、吸入剤、点眼剤、軟膏、注射剤 8. 薬物に影響を与える因子 個体差、性差、遺伝、薬物連用、食事、疾患、年齢など	講義	
3	9. 抗感染症薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬、皮膚科薬、眼科薬 10. 抗がん薬、免疫治療薬	講義	
4	11. 末梢での神経活動に作用する薬物、中枢神経に作用する薬物	講義	
5	12. 心臓・血管・呼吸系に作用する薬物、救急の際に使用される薬物	講義	
6	13. 消化器・生殖器系に作用する薬物 14. 物質代謝に作用する薬物	講義	
7	15. 漢方薬・消毒薬・輸血剤	講義	
8	16. 薬物と臨床検査 1) 薬物血中濃度モニタリング(TDM) 2) 検査値に対する薬物の影響 17. 新薬開発・治験、ジェネリック医薬品 18. 薬剤師による服薬指導 1) 服薬指導の対象者 2) 服薬指導の内容、方法、留意点 3) 看護師との連携	講義	
<p>授業の進め方            テキストを中心に講義する。            体内への吸収、代謝から薬効の発現までを理解できるように教授する。また、この知識を活用し薬剤の種類や適用部位が理解できるよう進めていく。</p>			
<p>テキスト            1. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [3] 薬理学 (医学書院)</p>			
<p>評価方法            筆記試験</p>			

領 域	専門基礎分野	開講時期	1年後期															
科 目 名	看護薬理	単 位 数 (時間数)	1単位(15時間)															
講 師 (所属・職位等・実務経験)	渡邊 真弓 (別府医療センター附属大分中央看護学校・教育主事・看護師 31年)																	
<p>&lt;科目目標&gt; 薬理学の内容を基礎知識として、臨床で薬物療法を受ける患者の看護について推論する。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>           1. 薬物療法における看護師の役割            1) 適切な与薬               (1) 誤薬防止 (2) 治療効果の確認 (3) 有害作用の早期発見と予防            2) 薬剤管理               (1) 医薬品の管理方法 (2) 劇薬、毒薬の管理方法               (3) 麻薬、向精神薬の管理と取扱い               (4) 病院内でおこりやすい医薬品管理に関するインシデント            3) 患者への説明と指導         </td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2～3</td> <td>           2. 薬物治療の実際            1) 薬物療法において看護師がとくに確認すべき項目               (1) すでに服用している医薬品やサプリメント               (2) 治療方針の確認 (3) 医薬品情報の把握            2) 薬剤投与の際に看護師が注意すべき項目               (1) 薬名 (2) 分量 (3) 用法            3) 薬物治療の評価               (1) 薬物治療の効果の判定 (2) 服薬状況の確認               (3) 副作用の早期発見と適切な対応            4) 服薬の自己管理に向けた看護               (1) コンプライアンスとアドヒアランス (2) 患者・家族に対する服薬指導            5) チーム医療、多職種との連携               (1) 医療機関におけるチーム医療 (2) 地域におけるチーム医療         </td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>           3. 薬物の体内動態からみたハイリスク患者            1) 吸収の障害：嚥下障害、胃ろうなど            2) 分布の障害：肥満、腹水・胸水など            3) 代謝の障害：肝機能障害など            4) 排泄の障害：腎機能障害         </td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>           4. ライフサイクルと薬物            1) 妊娠期（胎児期）               (1) 妊娠による生理的变化            2) 小児期               (1) 体重に対する細胞外液量増 (2) 脂肪・筋肉組織の割合減            3) 老年期               (1) 代謝機能の低下 (2) 分布容積の変化 (3) 薬物感受性の変化               (4) 腎機能低下         </td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 薬物療法における看護師の役割 1) 適切な与薬 (1) 誤薬防止 (2) 治療効果の確認 (3) 有害作用の早期発見と予防 2) 薬剤管理 (1) 医薬品の管理方法 (2) 劇薬、毒薬の管理方法 (3) 麻薬、向精神薬の管理と取扱い (4) 病院内でおこりやすい医薬品管理に関するインシデント 3) 患者への説明と指導	講義	2～3	2. 薬物治療の実際 1) 薬物療法において看護師がとくに確認すべき項目 (1) すでに服用している医薬品やサプリメント (2) 治療方針の確認 (3) 医薬品情報の把握 2) 薬剤投与の際に看護師が注意すべき項目 (1) 薬名 (2) 分量 (3) 用法 3) 薬物治療の評価 (1) 薬物治療の効果の判定 (2) 服薬状況の確認 (3) 副作用の早期発見と適切な対応 4) 服薬の自己管理に向けた看護 (1) コンプライアンスとアドヒアランス (2) 患者・家族に対する服薬指導 5) チーム医療、多職種との連携 (1) 医療機関におけるチーム医療 (2) 地域におけるチーム医療	講義	4	3. 薬物の体内動態からみたハイリスク患者 1) 吸収の障害：嚥下障害、胃ろうなど 2) 分布の障害：肥満、腹水・胸水など 3) 代謝の障害：肝機能障害など 4) 排泄の障害：腎機能障害	講義	5	4. ライフサイクルと薬物 1) 妊娠期（胎児期） (1) 妊娠による生理的变化 2) 小児期 (1) 体重に対する細胞外液量増 (2) 脂肪・筋肉組織の割合減 3) 老年期 (1) 代謝機能の低下 (2) 分布容積の変化 (3) 薬物感受性の変化 (4) 腎機能低下	
回	授業内容	授業方法																
1	1. 薬物療法における看護師の役割 1) 適切な与薬 (1) 誤薬防止 (2) 治療効果の確認 (3) 有害作用の早期発見と予防 2) 薬剤管理 (1) 医薬品の管理方法 (2) 劇薬、毒薬の管理方法 (3) 麻薬、向精神薬の管理と取扱い (4) 病院内でおこりやすい医薬品管理に関するインシデント 3) 患者への説明と指導	講義																
2～3	2. 薬物治療の実際 1) 薬物療法において看護師がとくに確認すべき項目 (1) すでに服用している医薬品やサプリメント (2) 治療方針の確認 (3) 医薬品情報の把握 2) 薬剤投与の際に看護師が注意すべき項目 (1) 薬名 (2) 分量 (3) 用法 3) 薬物治療の評価 (1) 薬物治療の効果の判定 (2) 服薬状況の確認 (3) 副作用の早期発見と適切な対応 4) 服薬の自己管理に向けた看護 (1) コンプライアンスとアドヒアランス (2) 患者・家族に対する服薬指導 5) チーム医療、多職種との連携 (1) 医療機関におけるチーム医療 (2) 地域におけるチーム医療	講義																
4	3. 薬物の体内動態からみたハイリスク患者 1) 吸収の障害：嚥下障害、胃ろうなど 2) 分布の障害：肥満、腹水・胸水など 3) 代謝の障害：肝機能障害など 4) 排泄の障害：腎機能障害	講義																
5	4. ライフサイクルと薬物 1) 妊娠期（胎児期） (1) 妊娠による生理的变化 2) 小児期 (1) 体重に対する細胞外液量増 (2) 脂肪・筋肉組織の割合減 3) 老年期 (1) 代謝機能の低下 (2) 分布容積の変化 (3) 薬物感受性の変化 (4) 腎機能低下																	

回	授業内容	授業方法
6～8	5. 事例を用いた臨床推論 1) 生体における薬物の体内動態 (ADME) (1) 吸収 (2) 分布 (3) 代謝 (4) 排泄 2) 薬物の効果 (薬効) と有害反応 3) 薬物に影響を与える生体因子 (1) 食事による影響 (2) 疾患による影響 (3) 薬物連用による影響 (蓄積、中毒、耐性) 4) ライフサイクルと薬物 (1) 妊娠期 (2) 小児期 (3) 老年期	講義
<p>授業の進め方</p> <p>学習した内容をもとに薬物の体内動態や薬剤による身体への影響、有害作用等の知識を活用し事例についての臨床推論や対応について学習する。各看護学での学習につなげていく。</p>		
<p>テキスト</p> <p>1. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [3] 薬理学 (医学書院)</p> <p>2. 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 (医学書院)</p>		
<p>評価方法</p> <p>筆記試験</p>		

領域	専門基礎分野	開講時期	1年後期
科目名	治療論	単位数 (時間数)	1単位 (30時間)
講師 (所属・職位等・実務経験)	①久米 正純 (別府医療センター・心臓血管外科医長) ②甲斐 成一郎 (別府医療センター・外科医長) ③大石 一成 (別府医療センター・麻酔科部長) ④古屋 暁生 (別府医療センター・放射線部長) ⑤山口 俊博 (別府医療センター・放射線部長) ⑥矢野 篤次郎 (別府医療センター・院長) ⑦佐藤 陽作 (別府医療センター・リハビリテーション科医長) ⑧西崎 武文 (別府医療センター・理学療法士長) ⑨大野 実 (主任作業療法士)		
<科目目標> 臨床で行われる主な治療である手術療法、麻酔法、放射線療法、がん化学療法、リハビリテーションの特徴と人体への影響について理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1～5	1. 手術療法 -10時間 1) 手術療法の目的と意義 (1) 手術療法が必要な患者 2) 手術療法と生体反応 (1) 手術侵襲の意味     (2) 手術に対する生体反応 (3) サイトカインによる生体調節 3) 切開、剥離、結さつ、切離、切除、吻合、修復、縫合、造設、置換、移植などの様々な手技 4) 術前管理 (1) 術前の患者評価     (2) 術前処置 5) 術後管理：全身管理、観察、術後疼痛管理、体液・輸液管理、創傷治癒、輸血療法 6) 術後合併症とその予防 7) 外科的感染対策：外科的感染症と対策 (1) 手術部位感染 (SSI)： 手術に伴う創部感染や手術後の腹腔内膿瘍の形成	講義	①②
6～7	2. 麻酔法 1) 麻酔とは 2) 麻酔の種類：全身麻酔と局所麻酔 3) 術前管理：術前回診、前投薬 4) 術中管理：呼吸、循環、筋弛緩 5) 全身麻酔 (1) 気道確保法   (2) 麻酔導入法   (3) 吸入麻酔法 (4) 静脈麻酔   (5) 全身麻酔中、麻酔後の合併症 6) 局所麻酔 (1) 脊髄クモ膜下麻酔     (2) 硬膜外麻酔 (3) 局所浸潤麻酔：表面麻酔、伝達麻酔 (4) 局所麻酔中の合併症	講義	③

回	授業内容	授業方法	担当講師
8～10	<p>3. 放射線診断、放射線治療</p> <p>&lt;診断&gt; *それぞれの検査の前処置、後の処置含む</p> <p>1) X線診断  (1) X線検査の種類：間接撮影、直接撮影、CT、造影CT</p> <p>2) 血管造影  (1) 検査の方法、準備、終了後の処置  (2) 胸部、腹部、頭部、心臓カテーテル検査</p> <p>3) MRI  (1) 特徴 (2) 禁忌：ペースメーカーなど  (3) MRI室への持込禁忌物品：金属、磁気記録媒体、電子機器</p> <p>4) 超音波診断 (1) 適応、特徴</p> <p>5) 核医学診断 (1) 種類、特徴</p> <p>&lt;治療&gt;</p> <p>1) 人体に対する放射線の影響  (1) 放射線量の単位 (2) 細胞に与える影響 (3) 正常組織に与える影響  (4) 臓器の反応 (5) 放射線による全身症状 (放射線宿酔)</p> <p>2) 悪性腫瘍と放射線療法</p> <p>3) 併用療法：手術、化学療法など</p> <p>4) 放射線治療の方法</p> <p>&lt;放射線防護と健康管理&gt;</p> <p>1) 放射線障害</p> <p>2) 放射線防護の基本と健康管理</p>	講義	④(診断) ⑤(治療)
11～12	<p>4. 化学療法：悪性腫瘍の化学療法</p> <p>1) 化学療法効果とがんの種類、化学療法の適応</p> <p>2) がんの集学的治療における化学療法  (1) 多剤併用療法</p> <p>3) がん化学療法とEBM</p> <p>4) がん化学療法による治療効果の評価：検査データなど</p> <p>5) 主な疾患の化学療法</p> <p>6) がん化学療法の身体的影響、副作用 (有害事象)</p> <p>7) がん化学療法前、中、後の留意点</p> <p>8) がん化学療法薬の投与管理  (1) 安全な取り扱い：防護、飛散の対応、廃棄など  (2) 血管外漏出時 (3) 感染管理 (4) 事故防止</p> <p>9) がん化学療法の最新の動向</p>	講義	⑥
13	<p>5. リハビリテーション療法</p> <p>1) リハビリテーションの定義と理念  (1) WHO 障害の概念</p> <p>2) リハビリテーションの分野  (1) 医学的 (2) 教育的 (3) 職業的 (4) 社会的</p> <p>3) リハビリテーション療法の目的</p> <p>4) リハビリテーション療法の種類と特徴  (1) 運動療法 (2) 物理療法 (3) 作業療法 (4) 言語療法</p> <p>5) チームメンバー  (Dr、Ns、PT、OT、義肢装具士、ST、視能訓練士、MSW、臨床心理士など)</p>	講義	⑦

回	授業内容	授業方法	担当講師
14	6)運動器系のリハビリテーション：骨折、関節リウマチなど 7)呼吸・循環器系リハビリテーション：慢性閉塞性肺疾患、心 リハ	講義	⑧
15	8)中枢神経系のリハビリテーション 脳血管疾患、脊損などの言語・嚥下リハビリテーション 9)視聴覚系のリハビリテーション：視覚障害、聴覚障害	講義	⑨

#### 授業の進め方

パワーポイントでの講義を中心に行う。

#### テキスト

1. 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 (医学書院)：①②③
2. 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 (医学書院)：④⑤
3. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [3] 薬理学 (医学書院)：⑥
4. 系統看護学講座 専門分野 臨床看護総論-基礎看護学<4> (医学書院)：⑥
5. 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 (医学書院)：⑦⑧⑨

#### 評価方法

筆記試験

領 域	専門基礎分野	開講時期	1 年前期																		
科 目 名	保健医療論	単 位 数 (時間数)	1 単位 (15 時間)																		
講 師 (所属・職位等・実務経験)	矢野 篤次郎 (別府医療センター・院長)																				
<p>&lt;科目目標&gt;            医学・医療とは何か、また、現代医療の動向や看護の役割を理解する。さらに、国立病院機構の機能や特徴を理解する。</p>																					
<p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1. 医学・医療の歴史 1) 歴史的背景 2) 近代医学の発展 3) 今後の医学・医療の動向</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2. 医学と医療 1) 現代医療の本質 2) 医療の実践 (1) 疾病の診断と治療 (2) 医師の義務 (3) 看護師の役割 (4) 現代医療におけるチーム医療 (5) わが国の医療供給体制</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>3～5</td> <td>3. 現代医療における諸問題 1) 医療における生命、死の概念 (1) 生命 (誕生) と死の考え方の変遷 (2) 脳死と臓器移植 (3) 死と生命維持、安楽死、尊厳死 2) 生命と倫理をめぐる課題 (1) 医療における倫理の変遷 (2) バイオエシックス (3) 先端医療と倫理的問題 (4) 臨床医学研究と倫理 3) 医療における患者の権利 (1) 患者の権利尊重の背景 (2) 患者の自己決定権と医療者の役割 (3) 病状告知 4) 新しい医療と生命科学 (1) 遺伝子・ゲノム医療 (2) 再生医学・再生医療</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>6・7</td> <td>4. 保健・医療・福祉をとりまく社会の変化と今後の医療 1) 疾病構造の大幅な変化 (生活習慣病や多疾患などの慢性化・複雑化) 2) 保健医療に係るリソースに対するニーズの増加・多様化 3) 保健医療サービスと患者の価値とのミスマッチ (1) 医療従事者の専門細分化 (2) プライマリケアや慢性期の医療の質 (3) 過剰診断、過剰治療、過剰投薬、頻回・重複受診 等 4) 複雑化・高度化する技術革新 5) 医療従事者への過度な負担 6) 医療の透明性や説明責任の不足</td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>5. 国立病院機構が担う医療 1) 国立病院機構の役割と機能 2) 政策医療 (1) 19 の分野 (2) 政策医療ネットワーク 3) 看護の特徴</td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 医学・医療の歴史 1) 歴史的背景 2) 近代医学の発展 3) 今後の医学・医療の動向	講義	2	2. 医学と医療 1) 現代医療の本質 2) 医療の実践 (1) 疾病の診断と治療 (2) 医師の義務 (3) 看護師の役割 (4) 現代医療におけるチーム医療 (5) わが国の医療供給体制	講義	3～5	3. 現代医療における諸問題 1) 医療における生命、死の概念 (1) 生命 (誕生) と死の考え方の変遷 (2) 脳死と臓器移植 (3) 死と生命維持、安楽死、尊厳死 2) 生命と倫理をめぐる課題 (1) 医療における倫理の変遷 (2) バイオエシックス (3) 先端医療と倫理的問題 (4) 臨床医学研究と倫理 3) 医療における患者の権利 (1) 患者の権利尊重の背景 (2) 患者の自己決定権と医療者の役割 (3) 病状告知 4) 新しい医療と生命科学 (1) 遺伝子・ゲノム医療 (2) 再生医学・再生医療	講義	6・7	4. 保健・医療・福祉をとりまく社会の変化と今後の医療 1) 疾病構造の大幅な変化 (生活習慣病や多疾患などの慢性化・複雑化) 2) 保健医療に係るリソースに対するニーズの増加・多様化 3) 保健医療サービスと患者の価値とのミスマッチ (1) 医療従事者の専門細分化 (2) プライマリケアや慢性期の医療の質 (3) 過剰診断、過剰治療、過剰投薬、頻回・重複受診 等 4) 複雑化・高度化する技術革新 5) 医療従事者への過度な負担 6) 医療の透明性や説明責任の不足	講義	8	5. 国立病院機構が担う医療 1) 国立病院機構の役割と機能 2) 政策医療 (1) 19 の分野 (2) 政策医療ネットワーク 3) 看護の特徴	講義
回	授業内容	授業方法																			
1	1. 医学・医療の歴史 1) 歴史的背景 2) 近代医学の発展 3) 今後の医学・医療の動向	講義																			
2	2. 医学と医療 1) 現代医療の本質 2) 医療の実践 (1) 疾病の診断と治療 (2) 医師の義務 (3) 看護師の役割 (4) 現代医療におけるチーム医療 (5) わが国の医療供給体制	講義																			
3～5	3. 現代医療における諸問題 1) 医療における生命、死の概念 (1) 生命 (誕生) と死の考え方の変遷 (2) 脳死と臓器移植 (3) 死と生命維持、安楽死、尊厳死 2) 生命と倫理をめぐる課題 (1) 医療における倫理の変遷 (2) バイオエシックス (3) 先端医療と倫理的問題 (4) 臨床医学研究と倫理 3) 医療における患者の権利 (1) 患者の権利尊重の背景 (2) 患者の自己決定権と医療者の役割 (3) 病状告知 4) 新しい医療と生命科学 (1) 遺伝子・ゲノム医療 (2) 再生医学・再生医療	講義																			
6・7	4. 保健・医療・福祉をとりまく社会の変化と今後の医療 1) 疾病構造の大幅な変化 (生活習慣病や多疾患などの慢性化・複雑化) 2) 保健医療に係るリソースに対するニーズの増加・多様化 3) 保健医療サービスと患者の価値とのミスマッチ (1) 医療従事者の専門細分化 (2) プライマリケアや慢性期の医療の質 (3) 過剰診断、過剰治療、過剰投薬、頻回・重複受診 等 4) 複雑化・高度化する技術革新 5) 医療従事者への過度な負担 6) 医療の透明性や説明責任の不足	講義																			
8	5. 国立病院機構が担う医療 1) 国立病院機構の役割と機能 2) 政策医療 (1) 19 の分野 (2) 政策医療ネットワーク 3) 看護の特徴	講義																			
<p>授業の進め方            講義では、視覚教材を用いて行う。</p>																					
<p>テキスト            1. 新体系看護学全書 別巻 現代医療論 (メヂカルフレンド社)</p>																					
<p>評価方法            筆記試験</p>																					

領 域	専門基礎分野	開講時期	2年前期～後期
科 目 名	社会福祉	単 位 数 (時間数)	2単位(45時間)
講 師 (所属・職位等・実務経験)	井上 祥明 (別府医療センター・医療社会事業専門職)		

<科目目標>

すべての人が人間としての尊厳を有し、価値ある存在であり、平等であることを理解する。現代の社会構造を理解し、看護専門職として支援のあり方を考える。

<内容>

回	授業内容	授業方法
1	1. 生活者の健康と福祉 1) 生活の基盤と社会福祉      2) ライフスタイルと社会福祉 2. 現代の社会福祉の考え方 1) コミュニティケア    2) ノーマライゼーション    3) 支えあう社会 3. 社会保障制度の基本と社会福祉 1) 社会保障制度 (1) 社会保障の目的 (2) 社会保障の機能 (3) 日本国憲法第25条 人権、倫理 (4) 情報公開、地方分権、参加 (5) 社会保障の体系 ① 社会保険：医療保険、介護保険、年金保険、雇用保険、労働者災害補償保険 ② 公的扶助：生活・教育・住宅・医療・介護・出産・生業・葬祭 ③ 社会福祉 ④ 公衆衛生および医療 (6) 社会保障の内容 ① 所得保障② 医療保障③ 社会福祉サービス (7) 社会保障給付費 (8) 社会保障制度改革 ① 地域包括ケアシステム ② 社会保障・税番号制度 (マイナンバー制度)	講義 演習(グループワーク)
2・3	2) 社会福祉の法制度 (1) 社会福祉の法制度の歴史的展開 (社会福祉の理念と変遷) ① 措置制度と利用契約制度 ② 利用者保護の制度 (2) 社会福祉サービスの内容とサービス提供のしくみ (3) 社会福祉法と福祉6法 (4) 社会福祉の財政 (5) 社会福祉の組織と実施体制(社会福祉行政、社会福祉協議会、社会福祉法人) (6) 社会福祉に関わる機関と機能：福祉事務所、児童相談所、更生相談所、社会福祉施設、在宅サービスの実施機関 (7) 福祉の専門職と職種(介護支援専門員、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士)と法律(社会福祉士及び介護福祉法) (8) 社会福祉における民間活動(民生委員、児童委員、社会福祉協議会、ボランティア、NPO)	講義 演習(グループワーク)



4・5	2. 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 1) 現代社会の変化 2) 社会保障・社会福祉の動向	講義 演習(グループワーク)
6～8	3. 社会保険制度の基本 1) 社会保険の理念と変遷 (1) 目的 (2) 機能 (3) 国民皆保険・皆年金 4. 医療保障 1) 医療保障制度の沿革 2) 医療保障制度の構造と体系 3) 健康保険と国民健康保険 4) 高齢者医療制度(高齢者の医療確保に関する法律<高齢者医療確保法>) 5) 保険診療のしくみ (1) 診療報酬制度 6) 公費負担医療 7) 国民医療費の動向	講義 演習(グループワーク)
9・10	5. 介護保障 1) 介護保険制度の基本理念 2) 保険者、被保険者 3) 要介護・要支援認定 4) 保険給付と利用者負担 5) ケアマネジメント 6) 介護サービス 7) 介護予防	講義 演習(グループワーク)
11・12	6. 所得保障 1) 所得保障制度のしくみ 2) 年金保険制度 (1) 制度の体系 (2) 給付と費用負担 3) 社会手当 (1) 児童手当 (2) 児童扶養手当・特別児童扶養手当 (3) 障害者手当 4) 労働保険制度 (1) 雇用保険 (2) 労働者災害補償保険法	講義 演習(グループワーク)
13・14	7. 公的扶助 1) 貧困・低所得問題と公的扶助制度 2) 生活保護制度の仕組み (1) 生活保護法(基本理念と原則、扶助の種類と内容) 3) 低所得者対策 4) 近年の動向	講義 演習(グループワーク)
15	8. 社会福祉の分野とサービス 1) 高齢者福祉(高齢者に関する法や施策) (1) 老人福祉法 (2) 高齢者虐待防止法<高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律> (3) 老人福祉計画	講義 演習(グループワーク)

16	2) 障害者福祉 (障害者 (児) に関する法や施策) (1) 障害者基本計画 (2) 障害者基本法 (3) 障害者虐待防止法 (4) 障害者総合支援法 (障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律) (5) 身体障害者福祉法 (6) 知的障害者福祉法 (7) 発達障害者支援法 (8) 障害者雇用促進法 (障害者の雇用の促進等に関する法律) (9) 障害者差別解消法 (障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律)	講義 演習 (グループワーク)
17	3) 児童家庭福祉 (児童に関する法や施策) (1) 児童福祉法 (2) 児童虐待防止法 < 児童虐待の防止等に関する法律 > (3) 母子及び父子並びに寡婦福祉法 (4) 次世代育成支援、少子化対策	講義 演習 (グループワーク)
18~23	9. 社会福祉、社会保障の現状と課題	講義 演習 (グループワーク)
<p>授業の進め方</p> <p>各回の教育内容に基づき、グループディスカッションを行います。ディスカッションした内容を班ごとに発表してもらいます。発表後に最近の動向や事例を含めて講義します。(事前学習としてテキストを精読しておくこと)</p> <p>20~23回の講義では、医療・看護・福祉の連携について、事例をもとにグループワークにて検討し、社会福祉、社会保障の現状と課題を理解する。</p>		
<p>テキスト</p> <p>1. 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障[3] 社会福祉 (医学書院)</p> <p>2. 国民衛生の動向 2021/2022 年版 (厚生統計協会)</p>		
<p>評価方法</p> <p>授業終了後のレポート提出 (授業最後に実施) 50 点、筆記試験 50 点、合計 100 点で評価する。</p>		

領 域	専門基礎分野	開講時期	2年前期
科目名 (单元名)	関係法規	単位数 (時間数)	1単位(30時間)
講 師 <small>(所属・職位等・実務経験)</small>	①坂本 昌則 (別府医療センター・経営企画室長) ②村上 由紀 (別府医療センター附属大分中央看護学校・教育主事・29年)		
<科目目標> 人々の健康を守り、看護職として職務を正しく遂行するために必要な保健・医療・福祉に関する制度や法律を理解する。			
<内容>			
回	授業内容	授業方法	担当講師
1. 2	I. 法の概念、法規の種類 II. 公衆衛生・衛生法規の概念と変遷 III. 衛生法 1. 医事法 1) 医療法 ①医療法の目的、医療提供の理念 ②医療施設の定義 ③医療に関する適切な選択の支援、医療安全の確保 ④病院・診療所・助産所の開設及び管理など	講義	①
3・4	2) 医療関係資格法 ①医師法 ②歯科医師法 ③薬剤師法 ④その他の医療関係資格法 i 診療放射線技師法 ii 臨床検査技師等に関する法律 iii 理学療法士及び作業療法士法 言語聴覚士法 3) 保健衛生福祉資格法 ①公認心理士法 ②精神保健福祉法 ③社会福祉士及び介護福祉士法 ④栄養士法	講義	①
5～7	2. 保健衛生法 1) 保健衛生法の概念、種類 2) 地域保健法 3) 健康増進法 4) 学校保健安全法 5) がん対策基本法 6) 食品安全基本法 7) 食品衛生法	講義	①
8	3. 予防衛生法 1) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 2) 新型インフルエンザ等対策特別措置法 3) 予防接種法 4) 検疫法	講義	①

回	授業内容	授業方法	担当講師
9・10	Ⅲ. 労働法と社会基盤整備 1. 労働法 1) 労働基準法 2) 労働安全衛生法 3) 育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律 2. 社会基盤整備 1) 男女共同参画社会基本法 2) 個人情報保護に関する法律 3) 行政手続きにおける特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律（マイナンバー法）	講義	①
11	Ⅳ. 看護と関係法規 1. 看護職と法律のかかわり 2. 保健師助産師看護師法 1) 保健師助産師看護師法の構造と附属法令	講義	②
12	2) 保健師助産師看護師法（目的、定義、免許）	講義	②
13	3) 保健師助産師看護師法（業務、研修、教育）	講義	②
14	4) 保健師助産師看護師法（義務、罰則）	講義	②
15	3. 看護職の法的責任 4. 看護師等の人材確保の促進に関する法律	講義	②
授業の進め方 テキストや看護六法をもとに、法令の条文について、意味が理解できるように説明を加える。また、法令に関連した通知等を提示しながら授業を進める。重要なポイントや国家試験で頻出される内容については、小テストをおこないながら知識の定着を促す。			
テキスト 1. 看護六法，新日本法規：② 2. 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔4〕看護関係法令，医学書院：①②			
評価方法 筆記試験			

領 域	専門基礎分野	開講時期	3年前期～後期												
科 目 名	公衆衛生学	単 位 数 (時間数)	2単位(30時間)												
講 師 (所属・職位等・実務経験)	田吹 好美 (翔労働衛生コンサルタント事務所・産業保健師、衛生管理者・49年)														
<p>&lt;科目目標&gt; 公衆衛生の基本内容、生活者の健康保持増進に関する保健活動を理解する。</p> <p>&lt;内容&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>授業内容</th> <th>授業方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>           1. 公衆衛生の概念            1) 公衆衛生の機能 2) 公衆衛生の意義 3) 公衆衛生の対象            4) プライマリヘルスケア 5) ヘルスプロモーションの展開            6) ポピュレーションアプローチ 7) ハイリスクアプローチ            8) 国際的連携、WHO加盟国の役割         </td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>2～4</td> <td>           2. 健康と環境            1) わが国の環境の現状と対策              (1) 地球環境 i. 地球温暖化 ii. オゾン層の破壊                  iii. アスベスト、放射性物質 iv. 水質汚染 v. 大気汚染                  vi. 土壌汚染              (2) 公害 i. 大気汚染 ii. ダイオキシン              (3) ごみ・廃棄物 i. 一般廃棄物 ii. 産業廃棄物                  iii. 市町村と企業の責任              (4) 住環境 i. バリアフリー                  ii. 建築物の衛生管理、シックハウス症候群、アレルギー性疾患の増加              (5) 食品衛生 i. 食品の安全                  ii. 食品衛生管理：食品安全確保対策、食品衛生管理制度            2) 健康に及ぼす影響              (1) 環境問題からくる健康への影響 (2) 食生活がもたらす健康問題            3. 疾病の疫学と予防            1) 疫学調査            2) 感染性疾患の疫学と予防              (1) 発生状況、流行現象              (2) 予防の基本と防疫体制：感染予防対策、予防接種など              (3) 最近注目される感染性疾患への取り組み：AIDS、結核、                  トリインフルエンザ、SARS         </td> <td>講義</td> </tr> <tr> <td>5～7</td> <td>           4. 健康に関連した指標            1) 国勢調査 (1) 人口統計：総人口、年齢別人口、労働人口、                          将来推計人口、世帯数、婚姻・家族形態            2) 人口静態 3) 人口動態 (1) 出生：出生率              (2) 死亡：死亡率、死産、周産期死亡、乳児死亡、死因の概要            4) 健康状態と受療状況 (1) 平均余命、平均寿命 (2) 健康寿命              (3) 有訴者の状況 (4) 有病率・罹患率 (5) 受療行動・受療率              (6) 入院期間 (7) 外来受診状況            5) 保健統計・指標 (1) 保健統計の意義、種類              (2) 患者調査・国民生活基礎調査・国民健康栄養調査・医療施設調査              (3) 医療費調査・医療施設調査・医療従事者調査・その他         </td> <td>講義</td> </tr> </tbody> </table>				回	授業内容	授業方法	1	1. 公衆衛生の概念 1) 公衆衛生の機能 2) 公衆衛生の意義 3) 公衆衛生の対象 4) プライマリヘルスケア 5) ヘルスプロモーションの展開 6) ポピュレーションアプローチ 7) ハイリスクアプローチ 8) 国際的連携、WHO加盟国の役割	講義	2～4	2. 健康と環境 1) わが国の環境の現状と対策 (1) 地球環境 i. 地球温暖化 ii. オゾン層の破壊 iii. アスベスト、放射性物質 iv. 水質汚染 v. 大気汚染 vi. 土壌汚染 (2) 公害 i. 大気汚染 ii. ダイオキシン (3) ごみ・廃棄物 i. 一般廃棄物 ii. 産業廃棄物 iii. 市町村と企業の責任 (4) 住環境 i. バリアフリー ii. 建築物の衛生管理、シックハウス症候群、アレルギー性疾患の増加 (5) 食品衛生 i. 食品の安全 ii. 食品衛生管理：食品安全確保対策、食品衛生管理制度 2) 健康に及ぼす影響 (1) 環境問題からくる健康への影響 (2) 食生活がもたらす健康問題 3. 疾病の疫学と予防 1) 疫学調査 2) 感染性疾患の疫学と予防 (1) 発生状況、流行現象 (2) 予防の基本と防疫体制：感染予防対策、予防接種など (3) 最近注目される感染性疾患への取り組み：AIDS、結核、 トリインフルエンザ、SARS	講義	5～7	4. 健康に関連した指標 1) 国勢調査 (1) 人口統計：総人口、年齢別人口、労働人口、 将来推計人口、世帯数、婚姻・家族形態 2) 人口静態 3) 人口動態 (1) 出生：出生率 (2) 死亡：死亡率、死産、周産期死亡、乳児死亡、死因の概要 4) 健康状態と受療状況 (1) 平均余命、平均寿命 (2) 健康寿命 (3) 有訴者の状況 (4) 有病率・罹患率 (5) 受療行動・受療率 (6) 入院期間 (7) 外来受診状況 5) 保健統計・指標 (1) 保健統計の意義、種類 (2) 患者調査・国民生活基礎調査・国民健康栄養調査・医療施設調査 (3) 医療費調査・医療施設調査・医療従事者調査・その他	講義
回	授業内容	授業方法													
1	1. 公衆衛生の概念 1) 公衆衛生の機能 2) 公衆衛生の意義 3) 公衆衛生の対象 4) プライマリヘルスケア 5) ヘルスプロモーションの展開 6) ポピュレーションアプローチ 7) ハイリスクアプローチ 8) 国際的連携、WHO加盟国の役割	講義													
2～4	2. 健康と環境 1) わが国の環境の現状と対策 (1) 地球環境 i. 地球温暖化 ii. オゾン層の破壊 iii. アスベスト、放射性物質 iv. 水質汚染 v. 大気汚染 vi. 土壌汚染 (2) 公害 i. 大気汚染 ii. ダイオキシン (3) ごみ・廃棄物 i. 一般廃棄物 ii. 産業廃棄物 iii. 市町村と企業の責任 (4) 住環境 i. バリアフリー ii. 建築物の衛生管理、シックハウス症候群、アレルギー性疾患の増加 (5) 食品衛生 i. 食品の安全 ii. 食品衛生管理：食品安全確保対策、食品衛生管理制度 2) 健康に及ぼす影響 (1) 環境問題からくる健康への影響 (2) 食生活がもたらす健康問題 3. 疾病の疫学と予防 1) 疫学調査 2) 感染性疾患の疫学と予防 (1) 発生状況、流行現象 (2) 予防の基本と防疫体制：感染予防対策、予防接種など (3) 最近注目される感染性疾患への取り組み：AIDS、結核、 トリインフルエンザ、SARS	講義													
5～7	4. 健康に関連した指標 1) 国勢調査 (1) 人口統計：総人口、年齢別人口、労働人口、 将来推計人口、世帯数、婚姻・家族形態 2) 人口静態 3) 人口動態 (1) 出生：出生率 (2) 死亡：死亡率、死産、周産期死亡、乳児死亡、死因の概要 4) 健康状態と受療状況 (1) 平均余命、平均寿命 (2) 健康寿命 (3) 有訴者の状況 (4) 有病率・罹患率 (5) 受療行動・受療率 (6) 入院期間 (7) 外来受診状況 5) 保健統計・指標 (1) 保健統計の意義、種類 (2) 患者調査・国民生活基礎調査・国民健康栄養調査・医療施設調査 (3) 医療費調査・医療施設調査・医療従事者調査・その他	講義													

回	授業内容	授業方法
8～14	5. 保健活動 1) 地域保健 (1) 地域保健法の理念と指針 (2) 健康日本 21 (3) 健康増進法 (4) 地域保健活動の場 i. 市町村保健センター ii. 保健所 (5) 医療法・医療計画 2) 母子保健 (1) 母子保健法 (2) 母子健康手帳 (3) 保健指導・訪問指導 (4) 健康診査・健康教育 (5) 養育医療 (6) 健やか親子 21 (7) 児童虐待防止 (8) 母子保護法 3) 精神保健 4) 学校保健 (1) 学校保健安全法 (2) 健康診断・健康相談 (3) 感染予防 (4) 学校環境衛生 5) がん対策基本法 6) 難病支援法<難病の患者に関する医療等に関する法律> (1) 特定疾患調査研究事業 (2) 特定疾患治療研究事業 (3) 医療費公費負担 7) 生活習慣病予防 (1) 主な生活習慣病の現状 (2) 栄養、運動、休息 (3) 喫煙・飲酒対策 (4) 健康教育と早期発見 (5) 循環器疾患の予防 (6) 糖尿病の予防 (7) 特定健康診査、特定保健指導 8) 障害児・者対策 9) 職場の健康管理 (1) 労働安全衛生法 (2) 健康管理・職業病の予防 (3) トータル・ヘルスプロモーション (4) 作業環境・作業環境管理 (5) ワーク・ライフ・バランス 6. 保健活動における看護職の役割	講義
15	7. これからの公衆衛生 1) 社会の変化と公衆衛生 (1) 少子高齢社会への対応 (2) 疾病構造の変化 (3) 危機管理 2) 国際化社会における公衆衛生 (1) 国際保健医療協力の推進 (2) 健康危機管理	講義
授業の進め方 本科目では、公衆衛生の概念や保健統計等を学習し、人々の健康の保持・増進に向けた保健活動について学ぶ。		
テキスト 1. 新体系看護学全書 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度②公衆衛生学(メヂカルフレンド社) 2. 国民衛生の動向 2022/2023 年版(厚生統計協会)		
評価方法 筆記試験		